

令和7年度 城北高等学校 第3回学校運営協議会 概要

令和8年3月18日（水）17時00分～

於：校長室

出席者（委員） 敬称略

市岡沙織（市岡製菓株式会社 代表取締役社長）
瀬畑俊夫（本校 PTA 会長）
多田穰治（アール・エスホーム株式会社代表取締役社長）
寺澤昌子（本校 校長）
藤本真路（徳島大学 理事・副学長）
美馬持仁（鳴門教育大学 理事・副学長）
山崎真弘（千松小学校 校長）
大栗一敏（徳島市城西中学校 校長）

- (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 校長挨拶
 - (4) 協議
- ①令和7年度の取組状況について

○11月以降の主な行事等

- ・ドイツ姉妹校交流：生徒6名と引率2名が訪独中。3月21日に帰国予定。
- ・P-time・SP-time(探究活動)発表会:大学教授などの外部講師を指導・助言者に招き、実施。
- ・定期演奏会：吹奏楽部と合唱部による演奏会が3月21日に開催予定。

○進路状況

- ・国公立大学合格者数：現在65名(昨年度同時期より3名増)。
特に理数科学科の合格者が昨年度の2倍以上と好調。
- ・入試形態の変化：総合型・推薦型選抜での合格率が昨年度の34.2%から48.3%に上昇した。
- ・特筆すべき合格実績：山口東京理科大学・徳島大学薬学部
東京藝術大学（音楽学部）に各1名の合格。
- ・就職状況：公務員希望者が例年より多い傾向。

○部活動の成果

- ・全国大会出場：剣道部、ライフル射撃部が春の全国選抜へ出場。
競技かるた部員が県の選抜チームの一員として全国大会に出場し、6位入賞。
- ・その他の活動：放送、書道、美術、女子バスケットボール、ラグビー、卓球、バドミントン、民芸部なども好成績を残した。
- ・今後の課題：少子化の影響で単独チームの編成が難しくなっている競技（ラグビーなど）もあり、地域との連携や活動の維持について議論した。

○45分授業の試行（「為せば成るウィーク」）の実施

- ・実施状況：2月に1週間実施。教員・生徒からは概ね好意的な意見が得られた。
- ・今後の検証：
 - 単なる満足度調査ではなく、学習時間の変化、睡眠時間、学習意欲の向上といった客観的なデータ（エビデンス）に基づいて効果を検証していく必要があるのではないか。
 - 効果を正しく判断するために、実施前（50分授業時）のデータをしっかりと収集し、比較検討すべき。
- ・主体的ルール構築：授業時間の短縮によって生まれた余暇を生徒がどう活用するか、生徒自身がルールや充実策を考えていく「主体性」を育む機会にしてほしい。
- ・授業の効率化：電子黒板の活用や事務作業の削減により、「教える時間」以外の時間を削減し、学びの質を維持する工夫について検討を重ねてほしい。
- ・新たな傾向：部活動に所属しない生徒が、面談などで「高校生活で一番頑張ったのは、探究活動です」と胸を張って答える生徒が増えているようになっている。それに見合った探究活動を行えるよう指導してほしい。

○理系人材の育成と理数科学科の魅力化

- ・入試状況：普通科は定員を上回る志願者があった。理数科学科は定員割れの傾向。
- ・課題：中学生にとって「3年間クラス替えがない」「理数系科目の負担が重い」といった不安が、理数科学科を敬遠する要因になっている可能性が指摘された。
- ・将来の展望：2040年問題を見据えた理系人材不足への危機感が共有された。「DXハイスクール」などの国の補助金を活用し、大学や企業と連携した魅力的なカリキュラム開発を進めてほしいという意見があった。

②学校評価総括評価表について

○アンケートの課題

- ・評価の低下：基礎学力の定着に関する生徒の肯定的な回答が、昨年度の82.4%から76.5%に低下。特に中だるみ傾向がある2年生への対策が課題。
- ・アンケートの精度：各回答者の間で「基礎学力」の定義が共有されていないことが問題視され、より具体的で回答しやすい設問への改善が提案された。
- ・保護者の回収率：デジタル配信（Classi）によるアンケートの回収率が低迷。「生徒から保護者に回答を促してもらう」といったアナログなアプローチの有効性が提案された。
- ・図書館の活性化と読書習慣：

- 生徒の興味に寄り添う選書、古典の漫画版やトレンドを反映した本など、生徒が手に取りやすい本を充実させ、まずは「借りる習慣」をつくることが提案された。
- さらに、講演会などで講師が「人生を変えた一冊」を紹介するなど、本に触れる動機付け「きっかけ」の提供を重視すべきとの意見があった。

○教員の働き方改革：

- ・現状の可視化：勤務時間の記録を厳密にした結果、前年比で数値が30%アップとなったが、現状把握が進んだため。これから勤務時間の短縮への工夫を検討してほしい。
- ・試行の効果：45分授業の試行期間中は、初めて前年同月比で勤務時間が減少。
- ・AIの活用：事務作業やまとめ作業にAIを導入し、人間が考えるべき業務に集中できる環境作りが期待されている。

(5) 閉会

- ・次年度から、学校と地域をつなぐ「地域学校協働活動推進員」が配置される予定。